

知を生かす 地域と大学

順正学園ボランティアセンター

困窮家庭に無償で食品



困窮家庭に届ける食品の計量作業などを行う学生＝4月17日、吉備国際大

4月中旬の平日、吉備国際大(高梁市伊賀町)の倉庫内にある作業場。学生が段ボール箱の重さを計量器で量った後、別の学生が重量をファイルに記入していく。米、レトルトカレー、ミルク、缶詰、チョコレート…。箱の中身は飲食物だ。



吉井敦子 参与

大学を運営する学校法人順正学園の名を冠したボランティアセンターが展開している、生活困窮家庭に無償で食料を届ける事業「デリシャスフードキックオフ」。

支援するのは中学3年以下の子どもがいる生活保護を受けていない家庭。約20人の学生ボランティアが食品の保管、種類や賞味期限などの分類、利用者の食物アレルギーの確認、梱包、月1回の発送などを担っている。

「フードドライブ」も定期的に実施。23年度は子どもへの食料支援で連携協定を結ぶ高梁、総社市の商業施設などに回収用の専用ケースを設置し、学生が買い物客らにチラシを配って協力を呼びかけた。



フードドライブ活動で買い物客にチラシを配って協力を呼びかける学生＝昨年11月、高梁市

高梁市こども未来課

池田範子 課長

順正学園ボランティアセンターと食料支援事業で連携する高梁市こども未来課の池田範子課長(左)に、困窮家庭の現状や活動内容について聞いた。



隠れた声にも耳澄ませる

センターとともに支援しているのは、1人親家庭などで生活保護を受けるまでに至らないものの、子どもの食事に困っている世帯だ。相対的に母子家庭が多い。

特殊詐欺注意呼びかけ 高齢者に「防犯ヒーロー」寸劇

順正学園ボランティアセンターは、地域貢献活動として、特殊詐欺の防止を呼びかける寸劇を制作。高齢者グループの会合などで披露している。



特殊詐欺の防止を訴える寸劇＝2月、高梁市

これまで高梁市、吉備中央町の高齢者グループやボランティア団体の会合で「上演し、好評を得ている。ユニークな活動は県の関係者の目に留まり、今春には闇バイトの危険性を訴えるチラシの制作も依頼された。